

(財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24  
TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609  
URL <http://www.k-rip.gr.jp>

伸びゆくアジアへ、九州から環境の新しい風を

## 九州-遼寧省環境ビジネスミッション

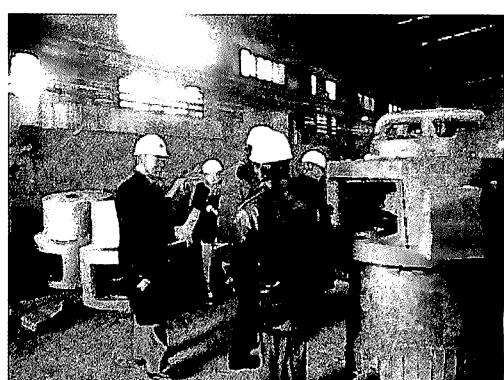
-K-RIP ミッション団を遼寧省（大連・瀋陽）へ派遣-



K-RIP では、2007年度に JETRO の RIT (地域間産業交流) 事業の採択を受け、九州-中国遼寧省間の環境ビジネス成約に向けた一連の事業を3カ年計画でスタートしました。今年はその最終年度であり、エコテクノ2009（2009年10月21日～23日）にあわせて大連市から要人を招聘しての「中国環境ビジネスセミナー」及び有力企業招聘による商談会を実施しました。今回は、交流事業の集大成として「九州-遼寧省環境ビジネスミッション」を2010年1月19日～23日の日程で実施。中国遼寧省大連市及び瀋陽市に環境ビジネスミッション団を派遣しました。麻生会長、橋高局長が同行し、29団体、総勢45名となったミッション団は、大連市及び瀋陽市の両地域において、環境産業交流会議や環境セミナー、商談会、視察などを行いました。

交流相手：

《大連市》 大連市政府（対外貿易合作局、環境保護局）、大連市環境保護産業協会  
《瀋陽市》 遼寧省環境保護局、遼寧省環境保護産業協会



1月19日（火）

■「大連日本環境産業テクノパーク」視察・意見交換

16:00～17:30（大連日本環境産業テクノパーク）

初日は、「大連日本環境産業テクノパーク」を視察し、関係者との意見交換を行いました。

大連市ハイテクパーク内の大連日本環境産業テクノパーク建設予定地をバス車上から視察し、同ハイテクパーク管理委員会にて、ハイテクパーク全体及び環境産業テクノパークの概要説明を受け、意見交換を行った。意見交換では、ミッション参加者から大連日本環境産業テクノパークの入居企業に対するサービスや支援内容などについて積極的な質問があり、ミッション参加者の関心の高さが伺えました。



1月20日（水）

■日本九州-中国大連環境セミナー

9:30～12:00／大連シャングリラホテル

大連市政府及び市内の環境ビジネス関係者に対して、持続的な経済発展のためには、環境保護と経済活性化の両立が必要不可欠であることを周知するための環境セミナーを開催しました。

九州の強みとする環境分野の経験及び中国側行政当局の環境分野の取組について、関係者の相互認識を深めると共に、環境産業交流のポテンシャル及びニーズ等について双方から発表が行われ、参加者からは高い関心が寄せられました。定員300名（九州側約80名、中国側約220名）の会場に入りきれないほどの盛況ぶりでした。

「日本九州-中国大連環境セミナー」式次第

■主催者挨拶：

九州経済産業局 橋高局長

■講演：

- (1) 北九州市（北九州市環境局 久鍋局長）
- (2) 中国環境保護部（中国環境保護部 王処長）
- (3) 大連市政府（大連市環境保護局 董局長）
- (4) K-RIP（K-RIP 麻生会長）
- (5) 大連市環境保護産業協会（環保協会 董会長）

【司会：九州経済産業局 木佐貫国際部長】



■大連市人民政府並びにK-RIP・九州経済産業局の第一回環境産業交流会議の開催

13:00~15:00（交流会議）／大連シャングリラホテル

2009年2月20日、K-RIPと大連市との間で「環境産業交流に関する覚書」が締結されたことを受け、双方の企業の具体的な連携プロジェクトに関する「調印式」及び、両地域の今後の環境ビジネス交流の促進に向けた環境整備（行政手続きや知財権保護など）に関する議論を行いました。



「環境産業交流会議」議事次第

■冒頭挨拶：

大連市戴副市長、麻生会長、橘高局長

■調印式：

『戦略的な技術合作協議について』

（環境テクノス（株）、富士化水工業（株）  
及び大連理工大学）

『水質浄化システムの中国事業展開に関する協力について』

（サワテック（株）及び大連日本環境産業テクノパーク）

■会議

- (1) 個別プロジェクト支援について
- (2) 環境ビジネス交流の今後の進展に向けて

■九州-遼寧省（大連）環境ビジネス商談会

13:30~17:00／大連シャングリラホテル

九州の環境関連企業と大連市内企業間の環境ビジネスを促進するための商談会を開催しました。

九州からのミッション参加企業24社（北九州ミッション企業含む）と大連市内企業44社との間で商談会を実施。商談件数はトータルで126件におよび、今後の商談成約見込が9件、交渉継続案件は70件にのぼるなど、会場は熱気に包まれた。大連市政府による環境改善の積極的な取組みから、水処理浄化技術など、環境汚染防止・浄化製品に対する関心が特に高く、環境機器へのニーズの高まりが感じられた。

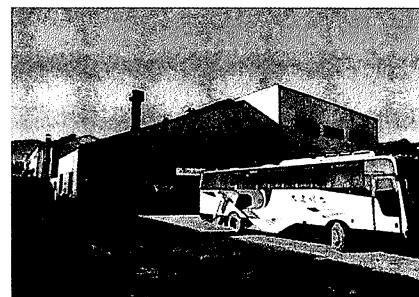


1月21日（木）

■「大連清本再生水有限公司」及び「大連清本鉄工有限公司」視察

8:00~10:00（大連清本再生水有限公司・大連清本鉄工有限公司）

九州の環境関連企業の中国進出事例として、昨年から大連市金州区経済開発区にて工場廃水処理事業を開始した「大連清本再生水有限公司」及び「大連清本鉄工有限



公司」を視察した。

1997年に取引先だった現地の郷鎮企業を買収し、独資で「大連清本鉄工有限公司」を設立し、船舶用アンカーなどの鋳鋼製品製造事業を大連市内で展開。その後、大連市金州区政府からの強い要請により、同政府との間に経済開発区内の工場地域排水処理事業を契約期間25年のBOT方式（※建設・運営管理・技術移転の一括方式）にて契約。2008年8月に開発区と意向書を締結し、突貫工事により約半年あまり（※厳冬期の施工停止期間を除く）で工場を完成させ、2009年11月に日量5千トンの処理能力（第1期）で稼働開始。なお、今後は第3期（日量4万トン）まで拡張する予定。旭化成の中空糸膜によるMBR（膜分離活性汚泥法）法とA2O法（嫌気-無酸素-好気法）を適用した新しい高度処理法を採用し、中水として利用可能なレベルまで浄化。



1月22日（金）

■九州-遼寧省環境ビジネス商談会（瀋陽）

14:00～17:00／瀋陽フーマホテル

九州の環境関連企業と遼寧省内企業間の環境ビジネスを促進するための商談会を開催しました。

遼寧省関係者との開会セレモニーの後、九州からのミッション参加企業23社（北九州ミッション企業含む）と遼寧省内企業24社との間で商談会を実施。商談件数はトータルで63件におよび、今後の商談成約見込が5件、交渉継続案件は17件にのぼるなど、会場は熱気に包まれた。今回、直前になって参加を取りやめた九州企業の環境ビジネスに対して高い関心を示す中国企業があるなど、中国の経済発展に伴う環境対策は待ったなしの実情がかいま見えた。事前のマッチングによる遼寧省参加予定企業は半数が当日欠席したが、その倍以上の企業が飛び込みで参加するなど、商談テーブルの調整は困難を極めたが、結果的には、日中双方の企業からは非常に高い評価を得た。



1月23日（土）

## ■「日本省エネ・環境科技新技術常設展」視察

9:00~10:00／遼寧省瀋陽市内

日本の新しい省エネ・環境関連技術を遼寧省の企業に紹介するために、遼寧省政府（外事弁公室、科学技術庁、環境保護庁）の強力なバックアップのもとで、遼寧省生産力促進中心等と（財）日中経渉協会が協力して実施している「日本省エネ・環境科技新技術常設展」を視察した。省エネ・環境分野における日中双方の共同研究を促進するために、遼寧省政府の支援により瀋陽市国家ハイテクパーク渾南産業開発区内の遼寧省技術転移中心ビルにて日本企業が有する同分野の新技術をPRするためのパネル展示を行っている。（※詳細は（財）日中経渉協会のHPを参照）大手企業が多数展示している中で、2FフロアにはK-RIP をはじめとして（株）アステック入江（北九州市）や（株）熊本清掃社（熊本市）、（有）バイオエナジー（佐賀市）、コヨウ（株）（福岡県みやま市）など、K-RIP が（財）日中経渉協会に紹介した九州の中小企業も展示。今回訪問した企業の中にも、展示方法などについて日中経協に質問する企業も数社見受けられた。



## ミッションを終えて

◆今回のミッションは、K-RIP の麻生会長（（株）麻生社長）や鶴田副会長（環境テクノス（株）社長）、吉田副会長（（株）ワイビーエム会長）をはじめ、九州経済産業局の橋高局長などの参加もあり、大連・瀋陽における商談会を共同開催した北九州市のミッション団を含めると、総勢 70 名を数える大ミッション団となった。

◆大連・瀋陽の商談会では、200 件近い商談が行われ、商談成立見込み案件 14 件、交渉継続案件 87 件となり、また、昨年と同様にミッション団メンバー企業間での商談も 1 件成立するなど、ジェトロ RIT 事業の 3 年計画の最終年度として極めて大きな成果をあげた。

委员建议：大力发展低碳经济  
餐饮垃圾回收利用今年在铁岭试点



两会  
视点

今起，全国两会将进入“部长通道”采访时间。部长们将就大家关心的热点问题回答记者提问。本报特派记者将通过文字、图片、视频、直播等多种形式，带您一起直击现场。

1. 禁止不打地基和超限设计	2. 使用节能家电
3. 多使用公共交通	4. 节水型马桶
5. 多种能源，多样	6. 节能照明
7. 节能减排，绿色出行	8. 节水灌溉，一水多用

## 大连—九州环保产业交流会在连举行

本报讯（刘名 记者王宏）“大连—九州环保产业交流会”昨日在连举行，由麦唯嘉（中国）有限公司主办，日本九州地区环境保全企业联合会、日本九州产业省九州经济产业局等多家单位联合发起成立。该会今后双方将加强合作，提高双方的法律意识，加大技术创新力度，共同促进双方企业的技术进步和产业升级。这标志着双方的合作已进入深入。

在谈到下一步的工作时，麦唯嘉（中国）有限公司董事长表示，在环保合作上，双方将发挥各自的优势，加强合作，实现共赢。

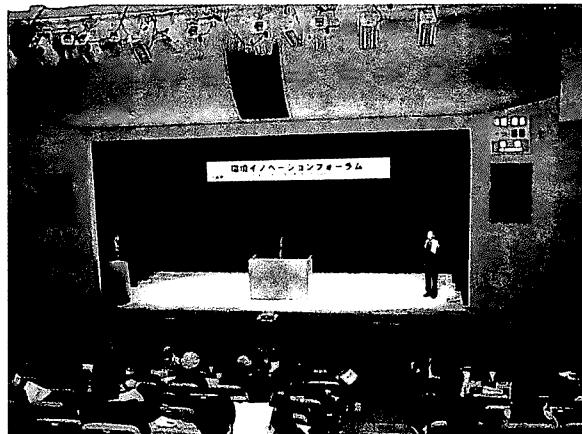
中国メディアの注目も高かった。

## 地域課題×環境技術

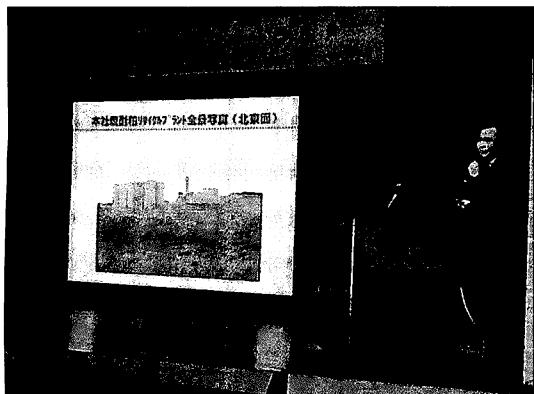
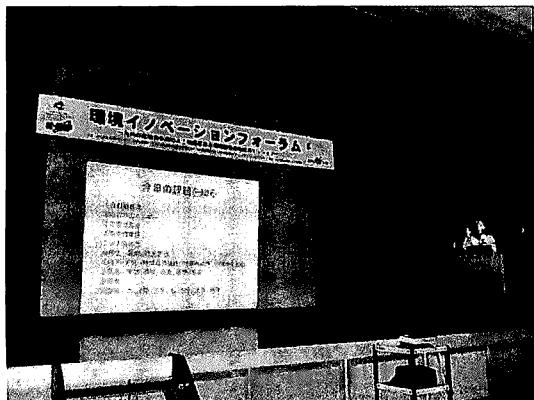
# 環境イノベーションフォーラム開催

—九州の産地力を高めよ！地場産業と環境技術の地域内セッション—

南九州における農商工連携による新事業創出を目的とした交流型フォーラム「環境イノベーションフォーラム」が平成22年2月19日、熊本市国際交流会館で行われました。今回はK-RIPと九州経済連合会、九州環境パートナーシップ(EPO九州)の主催で開催し、環境ビジネスマネジメントに関する基調講演と地域課題に応じた環境技術紹介のプレゼンテーションを実施いたしました。参加者は企業、自治体、NPOなど様々な立場の方が100名近く出席され、盛況のうちに終了しました。



基調講演では北九州市立大学ビジネススクールの松永准教授から、環境ビジネスとは何か？というおさらいから、地域と環境との関係性やマーケティングについて分かりやすくご講演いただきました。また、環境技術事例紹介では里山保全に関する事業やバイオマス利用の仕組み、農業に活用できる事例紹介など、南九州の地場産業に応用できる技術が発表されました。最後に行われた懇親会にも多くの方が出席され、サンプルを見ながらの交流が行われていました。



### ■ 基調報告

#### 「産地力を高める環境ビジネスマネジメント」

松永 裕己/北九州市立大学ビジネススクール 准教授

### ■ 環境技術事例紹介

#### ○「地域の利益分配を豚の放牧で事業化」

中村えいこ/有限会社えこふあーむ

#### ○「竹・剪定枝等の新しい処理技術」

佐藤勝正/株式会社サンケン・エンジニアリング

#### ○「山の恵みを豊かな海の再生へ」

加藤英之/株式会社哲建設

#### ○「高温メタン発酵による焼酎粕のリサイクル」

森山和之/霧島酒造株式会社

#### ○「有機物なら10日で消滅～かえってエコかも～」

東正貴/有限会社バイオエナジー

#### ○「地球温暖化防止に貢献する電気発熱ボイラー」

相良和夫/有限会社インターフィー

#### ○「促成イチゴの省CO<sub>2</sub>栽培」

伏原肇/有限会社ナチュラルステップ

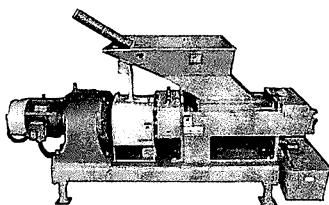
## 発表企業



### 「地域の利益分配を豚の放牧で事業化」

(有限会社えこひーむ、専務取締役 中村えいこ)

放置され荒廃した杉植栽林を伐採し、黒豚を放牧して里山を回復させるプロジェクト。豚のエサは、学校や病院の生ゴミや酒造会社の焼酎廃液をリサイクルし、放牧によって健康に育った豚は加工品にして販売しています。廃棄物から食品を生産し、小さな循環の仕組みを実践しています。



### 「竹・剪定枝等の新しい処理技術」

(株式会社サンケン・エンジニアリング、環境事業部長 佐藤勝正)

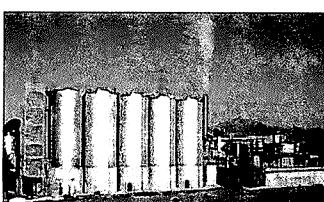
竹を揉摺り粒度が小さく表面積が大きい粉末状にすることで、微生物の住みやすい竹粉を作ります。ピートモスの代替品やコンポスト基材として利用しているほか、剪定枝やサトウキビの葉を堆肥にしたり、草を牛舎敷料としての検討が進められています。水分を多く含む食品を投入しても堆肥化できます。



### 「山の恵みを豊かな海の再生へ」

(株式会社哲建設、技術顧問 加藤英之)

森林の荒廃と、藻場の減少による魚介類の産卵・稚魚生育場の消失という地域課題解決として、木毛（間伐材等）をセメントと混ぜ合わせた木毛セメント板を開発。表面に露出した木毛の表面が剥離更新されることで、海藻の根が付着しやすくなるほか、藻礁にイカが産卵するなどの効果が実証されています。



### 「高温メタン発酵による焼酎粕のリサイクル」

(霧島酒造株式会社、生産本部副部長 環境グループ 森山和之)

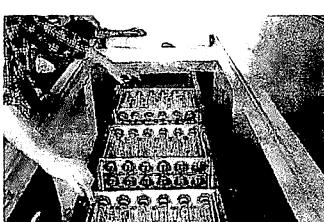
焼酎製造時の廃棄物である発酵残さを嫌気性発酵によって有効利用してエネルギー回収し、廃棄物処理コストと場内エネルギーコストを低減するシステムを構築。発酵残さの嫌気性発酵は通常の手法だが、その熱を利用して飼料を生産し、地域特性を生かして経済的なシステムを実現しています。



### 「有機物なら10日で消滅～かえってエコかも～」

(有限会社バイオエナジー、代表取締役社長 東正貴)

木質菌床（ウッドチップ）と有機物を混合し、適正水分にした上で分解促進消臭剤を添加します。毎日切り返す事によって、ほとんどの有機物を炭酸ガスと水蒸気に変え、10日程度で分解消滅を行います。また、処理を途中で中止し、木質菌床と分離し乾燥させる事で堆肥とする事も可能です。



### 「地球温暖化防止に貢献する電気発熱ボイラー」

(有限会社インターフィード、代表取締役 相良和夫)

石英管発熱温風ボイラーは耐熱ガラス管（日本板ガラス製）に鉱石をNANO化した特殊発熱塗料（特許品）をコーティングし、通電する事により最高500℃迄の発熱が可能。熱源に電気を使用するのでCO<sub>2</sub>の発生が皆無であり、従来の石油燃焼ボイラーに比べ、約1/2の電気料金ですみます。



### 「促成イチゴの省CO<sub>2</sub>栽培」

(有限会社ナチュラルステップ、取締役所長 伏原肇)

花芽分化や休眠等の生産上重要な生理現象の場となるクラウン部（イチゴ株元）の温度を、地下水を活用して効率的かつ直接的に制御することにより、気温高時での花芽分化促進および低温時の生育を促進させます。このことで無暖房、無電照栽培を可能としました。

## 環境ネットワークと学びの場

### 「エコ塾」

#### —連携エコ塾・拡大エコ塾を実施！—

環境が全国的な取り組みになった昨今において、新たな技術や製品がこれまでにないスピードで開発され世の中に出ています。エコ塾では九州経済産業局と連携し環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目指して講演会と立食形式の交流会を開催しています。（毎月第1水曜日）

2月と3月につきましては（財）西日本産業貿易コンベンション協会（2月）、佐賀県工業技術センター（3月）の協力の下、植物工場に特化したテーマでの開催や通常、福岡で行っているエコ塾の場所を移し佐賀県で開催するなど特色ある取り組みを行うことができました。今後も気になるテーマがあつたらエコ塾へGO！！（4月のエコ塾は4月7日開催予定となっております。）

#### 九州環境セミナー～拡大版エコ塾 in 佐賀～

平成22年3月10日

エコ塾の取り組みを九州各地域に広めることでより大きなネットワーク作りを目指し、佐賀県工業技術センターとの共催で「九州環境セミナー」を開催しました。昨年度の熊本に続き今回の佐賀県での開催では、大雪にもかかわらず、満員の参加者で会場は凄まじい熱気でした。

#### 『低炭素社会における、資源リサイクルと自然（有機）農業の拡大』

○菱興産業株式会社 太田 東洋彦 氏

人類が健康に生きるための源である農産物の提供に尽力する菱興産業では、有機物堆肥化装置、粉体加工機器の製造販売と環境関連機器の開発を行っています。長年の有機堆肥製造装置等を改善し、堆肥化システムを確立しました。現在国内外40プラントで良質な堆肥の生産を行い、有機農業の拡大に努めております。今回は特に温暖化防止と、自然農業、有機農業拡大への取り組みについてご講演いただきました。



#### 『高効率反射笠シャインライトとLED照明装置の開発にいたるまでの経緯と戦略』

○熊本電気工業株式会社 熊本 重徳 氏

一般的な照明では、ねらった場所の光量を調整することが困難なため、ランプ容量を増やすなどの処置がとられています。高効率反射笠シャインライトは、高い反射率に加え、ランプの微妙な高さを調整することで拡角照射、狭角照射の調整が可能とし、その場にあった照射を可能としています。このLEDの指向性を最大限に生かした省エネで、理想的な配光についてわかりやすくお話しいただきました。



エコ塾では毎月2社のプレゼンテーションを行っています。  
(詳しい日程についてはメルマガやホームページで案内致します。)

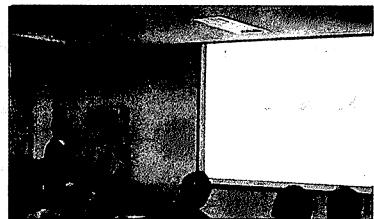
### 第32回エコ塾

平成22年1月13日(水)

#### 『オールバッテリー 3R 事業が地球環境に貢献』

○株式会社関谷 関谷 勝幸 氏

新品バッテリーの販売時にでる、不要バッテリーの回収を行い、バッテリー容量を回復させ、再生バッテリーの販売を行う。新品バッテリーの販売を行うよりも、バッテリーの使用量を減らす(R=Reduce)、中古バッテリーの再生により中古バッテリーの再利用を行う(R=Reuse)、物理的に再利用できないものは資源リサイクルに廻す(R=Recycle)といった、バッテリーの3Rを総合的に行うエコな取り組みについて説明していただきました。



#### 『世界初 “～次世代型交通システム「シティバイク」と「モバイル・カーシェアリング」』

○特定非営利活動法人タウンモービルネットワーク北九州 植木 和宏 氏

「シティバイク」とは高性能な電動アシスト自転車を、多地点で自由に「貸出・返却」が可能な新しい交通システムの形である。カーシェアとあわせて事業展開することで、過度なクルマ利用を抑制し、CO<sub>2</sub>等による環境負荷の低減を目指している。公共交通の補完を行うという世界初の次世代型交通システムへの取り組みについてご講演いただきました。



### 第33回エコ塾～植物工場関連講演会～

平成22年2月3日(水)

#### 『環境に配慮したドーム型植物工場の開発』

○健康の森グループ（阿蘇ファームランド） 坂本 秀二 氏

現在、阿蘇ファームヴィレッジで使用されている、ドームハウスの技術を活用し完全人工光型植物工場開発を行う。ドームハウスの素材に、特殊発泡素材を活用することで植物工場の課題である、光熱費軽減や環境負荷軽減に取り組んでいる。さらに今後、付加価値の高い植物栽培方法を知財化し新たな制御型植物栽培ユニットの海外供給に向けた事業化についてお話を頂きました。



#### 『モデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業の概要』

○九州沖縄農業研究センター 池田 広 氏

九州沖縄農業研究センターは平成21年度植物工場・拡大総合事業のモデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業に選定されています。農業・食品産業技術総合研究機構として、九州地域の植物工場の拠点として太陽光型植物工場によるイチゴやレタス類、スプラウト類等の栽培を行い、平成23年度までに重量当たりの生産費を3割以上縮減する技術の実用化についてお話をいただきました。



# K-RIP 会員紹介

多様な分野の専門家として K-RIP の専門家派遣事業等でアドバイスをいただいている技術士チーム（CE クラブ）を紹介します。環境立国に向けた技術士チームの取り組みは、1995年ドイツ MEO-net（ミールハイム、エッセン、オスナブリック）との、産業交流 MOU 締結、2007年韓国と K-RIP との MOU 締結に係るシーアークラブ専門家による支援、東アジアを中心とした国内外への環境産業支援は15年となります。とりわけ九州の中小企業等に対するリサイクル産業指導と社会貢献は今年で10年となります。

区分 内容	専門家の技術部門と活動実績表		
	氏名	部門	活動実績
北九州	角田 正治	機械・総合	技術開発, ケミカルリサイクル, 異業種交流
	柴田 秀夫	機械	異業種交流, 知的クラスター, リサイクル
	松原 好直	水道	K-RIPフェロー、水上下水道施設、異業種交流
	黒岩 貞治	電気・電子	風力, エネルギー, 発電
	三方 信行	衛生工学	リサイクル全般, ゴミ発電, ビジネスプラン
	宮田 守次	金属	エネルギー利用, 環境産業, 資源利用
	宮本 浩二	電気・電子・総合	公害対策, リサイクル, ダイオキシン
	山本 文雄	衛生工学	水利用, 環境バイオ, 環境技術支援
	泉館 昭雄	電気・電子	異業種交流, ビジネスプラン, 電気応用
	大久保英明	経工, 総合	リサイクル診断, 土壤汚染対策, ロボット
	大里 信義	化学, 総合	ビジネスプラン, ケミカルリサイクル, 事業計画
	是永 逸生	機械, 総合	異業種交流, ビジネスプラン, セラミック・金属応用
	齋藤 和幸	化学	リサイクル全般, セラミック, 廃棄物処理
	佐藤 淳一	機械	エコプロダクト, 機械応用, 生産システム
	副田 真日止	化学	ケミカルリサイクル, 異業種交流, ビジネスプラン
	長崎 治夫	電気・電子	電動機応用, 工場立地, 海外技術協力
	泊 正雄	応用理学	光触媒, 炭化, セメント化
福岡	日比野 満	衛生工学	廃棄物処理, リサイクル全般, 環境浄化
	沼田 晋一	建設	セメント化, 建設リサイクル, 資源利用
	三原 誠	情報工学	ISO構築, ITビジネス, 情報システム化
	沼尻 健次	機械・総監	K-RIPフェロー、粉粒体設備, 自動化, 产学連携
	江崎 親教	金属	リサイクル全般, 技術開発, ビジネスプラン
	齋藤 清美	衛生工学	K-RIPフェロー, 環境リサイクル全般, 環境教育
	松浦 茂雄	環境	環境カウンセラー活動, 環境教育, 環境産業支援
	碇 俊明	電気・電子	発変電施設, ニューエネルギー, 電気システム管理
	古賀 忠	機械	発電施設, 自動制御, 機械応用
	清水 博和	建設	九州防災全般, 環境教育, 建設リサイクル,
	増永 秀人	電気	発電, 環境産業支援, 技術開発, 異業種交流
	西島 一郎	機械・総合	屋上空間利用, 空気浄化, ビジネスプラン
	町田 貞徳	電気, 電子	太陽光発電, 異業種交流, 環境技術支援
	松尾 憲一	機械, 総合	ダイオキシン, 異業種交流, 新技術開発
	向江 宗利	経営工学	異業種交流, ダイオキシン対策, 環境教育
	山谷 三郎	機械	環境浄化, 環境バイオ, ビジネスマネジメント
	廣岡 利貞	建設	建設リサイクル, 環境基本計画, ビジネスマネジメント
	黒江 浩	機械	異業種交流, 技術開発支援, 省エネ支援
	田代 利明	建設	環境経営, ISO審査, 産業教育
	井芹 寧	環境, 水道	ダム水質対策, 産業支援, 環境ビジネスモデル
	鈴木 淳	電気	技術開発, 産業教育, 異業種交流
	木塚 俊和	化学	異業種交流, 省エネ, ビジネスマネジメント

内容区分	専門家の技術部門と活動実績表		
	氏名	部門	活動実績
大分	村谷 俊雄	化学	環境教育, 技術開発, 環境産業支援
	篠島 昇	建設・総合	建設リサイクル, 技術開発, ビジネスプラン
	二宮 和生	水道, 衛工	廃棄物処理, 水質浄化, ビジネスプラン
	佐藤 全良	農業	事業計画, ビオトープ, 建設リサイクル
	吉良 文至	建設	土壤浄化, 建設リサイクル, 畜産バイオ
	黒田 岷二	応用理学	土壤浄化, 地下水浄化, 地熱利用
	植木 和宏	建設	環境バイオ, 堆肥化, 土壤分析
	守末 憲昭	水道	水質浄化, 建設リサイクル, 環境アセスメント
佐賀	楠田 直稔	農業	バイオマス, 食品リサイクル, 技術開発
	川崎 軍治	化学	環境産業支援, リサイクル, 環境教育
	島内 明	土質, 基礎	土壤対策, 堆肥化, 建設リサイクル
	皆良田征夫	金属	安全, ISO, EA21, 産業教育
長崎	本田 圭助	機械	環境カウンセラー活動, 環境教育, 新技術開発
	柏原 公二郎	応用理学	地球環境対応, 地質地熱開発, 建設リサイクル
	黒瀬 正行	建設	ビジネスプラン, 異業種交流, 技術開発
	久保田英士	機械	焼却炉, 技術開発, ビジネスプラン
	松尾 稔	機械	産業融合, 異業種交流, 環境施設
	上戸 好美	金属	ビジネスプラン, リサイクル全般, 畜産バイオ
	清水 富夫	機械	特許管理, 国際技術協力, 新技術開発
熊本	小島 義博	衛生工学, 建設, 総合	ビジネスプラン全般, 環境教育, 環境リサイクル支援
	高橋 孝誠	機械	新技術開発, ISO, 安全技術開発
	合志 正夫	電気・電子	インフラ自動制御, 技術支援, ゴミ発電
	中野 正一	農業	農業バイオ、建設リサイクル、ビジネスプラン
	吉田 紘彬	応用理学	建設リサイクル, 土壤汚染対策, 環境浄化
	青山 次則	建設	ビジネスプラン, 建設リサイクル, 異業種交流
	中村 秀樹	建設	建設リサイクル, ビジネスマodel, 異業種交流, バイオ, 安全管理
	田尻 雅則	建設	異業種交流, 建設リサイクル, ビジネスマodel
	田崎 順二	建設, 環境	緑化全般, 環境アセスメント, ビオトープ
宮崎	岩切 重人	衛生工学, 建設	建設リサイクル, 環境リサイクル全般, ビジネスプラン
	山下 實	農業	食品安全、リサイクル, 環境バイオ全般, 技術開発
	下津 義博	環境	環境リサイクル, 技術移転, 有害物処理
	西田 靖	建設	環境アセスメント, 建設リサイクル, 土壤汚染対策
鹿児島	上野 敏孝	建設	建設リサイクル, ビジネスプラン, 河川浄化
	田ノ上春雄	農業	ビジネスモデル創出、インフラ安全、異業種交流
	田中健次郎	環境	産業教育, 環境技術開発, 資源利用
	前田三喜夫	環境、建設、衛工	廃棄物, 環境リサイクル支援, ビジネスプラン
	井上 祥人	森林	産業融合, 資源管理, ビジネスマodel創出
	稻田 博	建設	社会技術教育、環境産業支援, ビジネスプラン
	新屋敷 和明	建設	環境バイオ, 建設リサイクル, 資源利用
	若井一顕	電気・電子	産業教育, 新技術開発, 地域資源利用
	大山 勉	応用理学	異業種交流, 土壤汚染対策, 地熱利用

K-RIP設立協力会員(年会費5万円)・社団法人日本技術士会本部登録グループCEクラブ

(科学技術開発相談所内九州産業コンサルタント協会)

#### 本部相談所

社団法人日本技術士会本部登録グループ

科学技術開発相談所(CE クラブ)

福岡県大野城市山田 1-2-5

TEL 092-589-3340 FAX092-403-0027

副会長担当

#### 支部相談所

社団法人日本技術士会九州支部

業務開発委員会

福岡市博多区博多駅中央街 7-1-203

業務開発委員長担当

# インフォメーション

未来に向けた環境プロジェクトを支援する

## 平成22年度 K-RIP プロジェクト募集開始！

K-RIP では会員の産学官連携による研究開発や事業化に向けたスタートアッププロジェクトに対して一部資金の助成や専門家によるアドバイス等の支援を行う「K-RIP プロジェクト」事業を実施しています。過去に採択されたプロジェクトの中には、採択をきっかけに事業内容を高度化させ、国や自治体の助成プログラムに採択されたり、K-RIP ネットワークによる事業拡大や異業種連携を推進しているケースが多数創出されています。皆様の応募をお待ちしております。

○応募資格：K-RIP 会員もしくは、K-RIP プロジェクト応募時に入会する者。

○募集期間：平成22年3月8日（月）～4月7日（水）

○選考：4月21日（水）に開催される K-RIP プロジェクト審査会においてプレゼンテーション審査を行い、採択プロジェクトを決定します。  
(応募者多数の場合等には、書類選考を行います。)

○採択件数：3～4件程度

○支援メニュー例：

- ①K-RIP プロジェクトとしての認知・広報・成果発表会の場の提供
- ②関連情報の提供、アドバイザー（専門家）派遣
- ③地方自治体等関係機関との連携支援
- ④補助金・融資制度等の情報提供
- ⑤研究会等の運営経費（上限100万円）の助成 等

※認定されたK-RIPプロジェクトへの支援内容については、ビジネス創出部会幹事会が外部機関の協力も得た上で決定します。

応募方法などの詳細は、K-RIPホームページの「K-RIPプロジェクト」をご参照ください。不明な点はK-RIP事務局までお問い合わせください。

<http://www.k-rip.gr.jp>

[Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza] (K-RIP)

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東2丁目13-24

(財)九州産業技術センター内

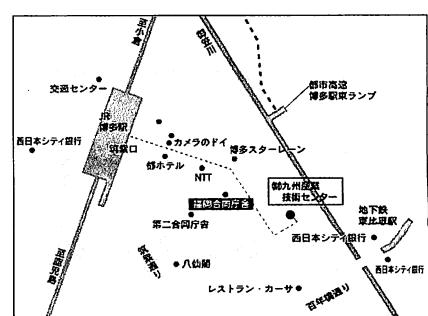
TEL 092-474-0042

FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp/>

e-mail [info@k-rip.gr.jp](mailto:info@k-rip.gr.jp)

**K-RIP**  
Industrial Cluster Project  
産業クラスター計画



平成22年3月発行

PRINTED WITH  
**SOY INK**  
大豆インクを使用しています